

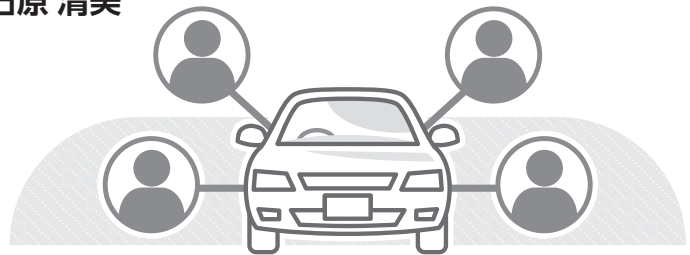
上手に
活用したい

カーリース・ レンタカー・ カーシェア のメリット・デメリット

近年、様々なサービスの普及により、法人でもレンタカーやカーシェアの利用が増えています。そこで、各サービスのメリット・デメリット、利用時の留意点を確認します。

社会保険労務士事務所 オフィスキよみ
特定社会保険労務士

石原 清美



カーリースを 利用する場合

(1) メリット

リース契約は、契約期間中であれば、車両を購入したときと同じように、いつでも自由に車を使用できます。

車種やグレード、カラーを幅広く選択することができ、契約満了時には、安価で購入できる場合が

あります。

リース料は、基本的に全額経費として処理できます。また、月々の支払いは定額なので、事務作業の手間もかかりません。

長期契約のため、月額費用が割安で、車の使用台数が多い会社でとくに利用されています。

(2) デメリット

新規登録費用や車検費用、メン

テナンス費用、自動車税などは購入したときと同様に負担しなければなりません。

リース契約は一般的に1年以上の長期契約が必要となり、その途中で車を返却することは原則できません。やむを得ない理由により、中途解約できるケースもありますが、その場合は高額な違約金が発生する場合もあり、注意が必要です。

さらに、事故歴や擦り傷が多い場合は、返却時に追加料金が必要になるケースもあります。

また、リース契約を結ぶためには与信審査が必要です。審査後の手続きが複雑なため、納車されるまでに、1〜2か月かかります。

(3) 留意点

車の所有者はリース会社ですが、使用者の名義は契約者となるため、駐車場を確保し、車庫証明書を提出する必要があります。

長期契約のため、月額料金は割安ですが、初期登録費用などの負担もあるので、他のサービスと比べる場合は、総額で考える必要があります。

リースの基本料に含まれるのは、法律で加入が義務付けられて

いる自賠責保険のみで任意保険の自動車保険は含まれていないのが通常です。

そのため、任意自動車保険込みのプランに加入するか、別途加入する必要があります。

また、昨年12月より、緑ナンバー車両（営業車）だけでなく、事業所単位で5台以上の白ナンバー車両（社用車）を保有する場合にも、検知器を使ったアルコールチェックが義務化されました。

リースした車は、事業所の車としてカウントされるので注意が必要です。

レンタカーを 利用する場合

(1) メリット

レンタカーは、車検やメンテナンスはレンタカー会社が行なうため、車の維持費がかかりません。

所有者、使用者の名義はレンタカー会社なので、車庫証明書や自動車税の負担もありません。

数日での使用はもちろん、1週間や1か月単位での契約も可能で、必要な時間や日数だけ車を利用することができます。途中解約が必要になった場合でも、高額の違約金が発生する心配はなく、経

費のコントロールがしやすくなります。

また、与信審査がないため、即日利用が可能です。出張先で車が必要になったときに利用することも可能です。

(2) デメリット

レンタカーは、レンタカー会社のスタッフと直接会って手続きを行なうことが多いため、店舗の営業時間内であれば、車を借りることも返すこともできません。

また、月額レンタル料で比較すると、基本的にカーリースより割高になります。

車種やカラーは、店舗にあるものから選ぶため、カーリースのような自由度がありません。また、借りたときに借りたい車があるとは限りません。

(3) 留意点

レンタカー会社を選ぶ際には、まず会社の近くに店舗があるか確認しましょう。予約のしやすさや営業時間、支払い方法もチェックしておく必要があります。

出張先で利用する場合は、地方にも多く店舗があるレンタカー会社を選ぶ必要があります。

出張時の急な使用など、スポット的な利用であれば、アルコールチェックは義務ではありませんが、継続的に業務利用している場合には、アルコールチェックが必要となります。

また、検知器を使ったアルコールチェックについても、継続的に業務利用していれば、事業所の社用車としてカウントされるので注意が必要です。

レンタカーは、一般的に自賠責保険と任意自動車保険が基本料金

に含まれていますが、免責補償制度（事故を起こした際に支払う免責額を免除する制度）や、ノンオペレーションチャージ（事故を起こした際にレンタカー会社が被る損害を一部負担する金額）については、レンタカー会社によって扱いが異なりますので、必ず確認しましょう。

カーシェアを利用する場合

(1) メリット

カーシェアは自動車税も維持費もかかりません。自賠責保険と任意自動車保険も基本料金に含まれているので、利用する都度手続きをする必要はありません。

短距離・短時間で車を頻繁に利用したい場合や、月に数回だけ車が必要な場合に便利です。駐車場は不要で、24時間いつでも利用・返却が可能です。

営業パーソンが自宅近くのカーシェアステーションを利用すれば、会社に立ち寄らずに直行直帰もできるようになります。

(2) デメリット

車種を選ぶ自由度が低く、カーシェアステーションに空車がなけ

れば利用することができません。また、日頃から営業で使うカタログや商材などを車に積んでおくことができません。

(3) 留意点

まずは、利用したいエリアにカーシェアステーションがあるかを確認しましょう。業務に支障なく空車を確保できるか、料金体系などもチェックしておきましょう。

レンタカーと同様に、出張時の急な使用などスポット的な利用であれば、アルコールチェックの義務はありませんが、継続的に業務利用している場合には、アルコールチェックが必要となります。

また、検知器を使ったアルコールチェックについても、継続的に業務利用していれば、事業所の車としてカウントされるので注意が必要です。



通常の社用車はカーリースを、

出張時はレンタカー、営業パーソンの直行直帰にカーシェアを利用する、というように複数のサービスを組み合わせる方法もあります。サービスは、自社の目的や状況に合わせて選びましょう（上図）。

■サービスを選ぶ際のポイント

カーリース	<ul style="list-style-type: none">・営業などで多くの車を利用したい・長期的に他のサービスよりお得に利用したい
レンタカー	<ul style="list-style-type: none">・利用期間をフレキシブルにしたい・出張先などで車を使用したい
カーシェア	<ul style="list-style-type: none">・短時間・短距離でスポット的に車を使用したい・営業パーソンの直行直帰などに使用したい



いしはら きよみ オフィスキよみ企画代表取締役。関西大学大学院ガバナンス科修士課程修了。運輸に特化した社労士として経営者をサポート。著書に『中小企業のためのトラック運送業の時間外労働削減の実務（第一法規）』、『トラック運送業書式集（日本法令）』など。 <https://www.officekiyomi.jp/>